

Computer Report

Vol.59 No.12 12月号 (通巻783号)

はじめの言葉

■相変わらず周辺各国の諸問題が尾を引いている。直近の問題は韓国との軍事情報包括保護協定 GSOMIA をめぐるものである。聞いているだけに「ウンザリ」である。そもそもが韓国による 1965 年に締結した国家間協定違反に端を発する徴用工／慰安婦問題にある。さらに半導体生産財の輸出規制問題に移行し、それに違反している韓国に是正を求めたところ GSOMIA 破棄という軍事上の安保問題へと曲解される事態になっている。

■経済問題を国家間の安保問題にすり替えてしまった韓国だが、それには現在の文在寅韓国大統領が選挙公約で GSOMIA 破棄を掲げていたことが最大の理由であり背景である。言ってみれば、朝鮮半島統一を図る文在寅政権が北朝鮮に付度するための基本的政策だったわけで、どのタイミングで打ち出すかは、虎視眈々、文政権が発足時から狙っていた規定路線だったようで、そもそも、論じること自体が無意味だったのだ。

■したがって、今回の韓国によって持ち出された GSOMIA 問題は、今後とも安全保障問題に韓国を加えていくことに、基本的根本的な部分で問題を孕んでいることを、改めて日米両国に示して見せたと言える。言うまでもなく、朝鮮半島は、南北で休戦協定が結ばれているものの、いまだに戦争状態にあるのだ。その南北両国の統一を第一義にする政権に輸出制限協定を守るように求めること自体が無理だったのだ。

■「盗人猛々しい」と言い放った文政権は、端から輸出規制物資の横流し行為／盗人行為をしないようになどしていなかった。まさに、それを指摘されて逆切れをして見せた。文字通り「盗人猛々しい」を地で言っているわけだが、こうした相手の最大の武器は「常識が通用しない」ことだ。何を言っても「無駄」である。これまでも何度も日韓基本条約違反を重ねてきた上での今回の歴史的騒動。落ち着く間までに暫く時が必要だろう。

■軍事上の問題共有の難しさは言うに及ばないが、民間レベルでも多くの情報共有問題がある。たとえば LINE サービスである。電話通話が無料になるということで、多くの人々に広く使われているが、他の SNS サービスも含めてサービス運営企業に個人情報が筒抜けになっているリスクがある。もしも、国家間紛争／戦争が発生した場合、運営会社は真っ先に国籍のある国家によって接收／管理されることになる。

■最早、世界規模となった情報化社会。国民の生活は情報処理システムの管理下に置かれている。その情報処理システムの管理が、有事の際、他国の支配下に置かれることの脅威はトドメを知らない。利便性を謳歌している昨今の市民生活だが、実に恐ろしい世界に存在しているということだ。ミサイル攻撃など分かり易い軍事攻撃を受けることよりも、なお一層の脅威／リスクに迫られることになるだろう。切に平和を願うばかり。

■末尾ですが 60 年に渡って読者諸賢にご支援／ご購読して戴いて参りました弊誌ですが今月号をもって休刊とさせて戴くことと致しました。コンピュータ黎明期、主に企業の情報処理システム展開を中心にスタートした弊誌ですが、今日のような社会的な情報処理システム展開の時代に至り、一定の役割を果たしたと判断しております。これまでに読者諸賢に頂戴致しましたご高配に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(藤見)

死者 88 名、行方不明者 7 名の犠牲者を記録した台風 19 号による被災被害は、文字通り未曾有かつ悲惨な大災害となった。地球温暖化が背景にあると指摘されている昨今の異常気象が産んだ台風である。対処療法的な災害対策だけでは対応できない問題だと繰り返し指摘されている。毎年、世界のどこかで大災害が繰り返し発生している。しかも、その規模の大きさは年を追って大型化してきている。被災者のご冥福を祈る。

■世界の工場と言われ世界第二位の経済大国となった中国、そして世界第一位の経済大国アメリカの二国が、世界的な地球温暖化対策に背を向けていることは、周知の通り。災害被害者を世界的規模で数多く出しながら、その遠因だと言われる原因対策から逃げている経済大国の姿勢に憤りを感じざるを得ない。大国二国のトップには真摯な反省とともに、国家運営の責任者としての責務遂行の自覚を改めて求めたい。

■ラグビー世界大会での日本チームの大活躍には日本全国民が感動し、国中が沸いた。予選リーグ戦全勝でリーグトップとなり、我が国のラグビー史上初の 8 強入りを果たした瞬間、日本は、文字通り、ひとつになった。そして、日本チームの快挙を国中が称えた。惜しくも決勝トーナメントでは因縁の相手国南アフリカに敗退したが、チームの健闘を称賛する国民の気持ちは最高潮に達した。文字通り、歴史的快挙だった。

■二度目の東京オリンピックまで 9 ヶ月となった今になって、最終日種目となっているマラソンコースの変更が、突然発表された。東京から札幌に移すというものだ。東京コースでの選手の最終選考レースが行われ、出場選手が決まった後だけに、日本中から疑問の声が上がった。一体、誰が、どのような経緯で、こういうことになったのか。小池東京都知事にとっても寝耳に水だったとのことで、大騒動になっている。

■肝心な時にはいない、役割を果たさなくてはならない時に雲隠れしているような人物は結構多い。今回の騒動の中心人物、その張本人らしいと思しき人物として浮上したのが、東京五輪組織委員会の森喜朗会長である。この仁が登場すると、いつも騒動になる。今般のラグビー世界大会から身を引いたからこそスムーズな運営ができたと思えるほどの人物である。今からでも遅くはない。頼むから表舞台から退いて欲しい思いがする。

■台風 15 号 / 19 号の大災害に配慮、天皇御即位を披露するパレード「祝賀御列の儀」が延期された。現行憲法下における天皇陛下としてお二人目の天皇御即位である。日本という国家としての在り方を問う現行憲法の改正論も活発になっている中での御即位である。憲法の改正反対 / 憲法を守る立場から、御即位を「祝わない」と主張する勢力も存在する複雑な状況でもある。国家斉唱に反対する声もある。

■古い話になる。1973 年 10 月 13 日、英国のツイッケンハム (Twickenham) で遠征していた全日本ラグビーチームの対外試合を観戦した。対戦チームは、「イングランドアンダー 23」だった。結果は日本チームの大敗だった。対戦前に行われた両国国歌斉唱は、国外で聞いた初めての「君が代」だった。感涙していた。今般大活躍の日本チームが謳った「君が代」である。国民はひとつになる時がある。その時、国歌がある。(藤見)